

さいたま市立田島小学校

自分の考えをもち、いきいきと表現する子を育てる指導の工夫

1 研究主題

「自分の考えをもち、いきいきと表現する子を育てる指導の工夫」

2 研究の内容

(1) 目指す子どもの姿

- 自分の考えをもつ子…課題や問題に対して、自分なりの考えを出すことができる
- いきいきと表現する子…いろいろな表現方法を知り、分かりやすく伝えるために使うことができる

(2) 研究の視点

[視点1] …他教科に生かせる国語力をつけるための国語科の単元の工夫

手だて①…目的意識・相手意識が明確な単元を作る

- ・ゴールとなる言語活動の工夫
- ・モデルの活用

手だて②…自分の考えを表現できる機会を作る

- ・いろいろな表現方法を取り入れる
- ・伝え合う場の工夫

手だて③…特別な配慮を要する子どもたちに対応した具体的な支援

- ・ユニバーサルデザインの視点で

[視点2] …学習環境・言語環境の整備

手だて④…語彙を増やすための日常的な取り組みの継続

- ・試写や短作文
- ・学年に応じて様々な言葉や文にふれさせる（音読）
- ・国語辞典の活用
- ・新聞の活用

手だて⑤…教室環境への配慮・掲示物の工夫

- ・前面の掲示板のカーテンの活用
- ・黒板にマス目を入れておく
- ・常設掲示する物の選択

手だて⑥…読書の推進

- ・読書量を増やす工夫（低学年）
- ・読書の幅を広げる工夫（高学年）

3 研究の実際

(1) 授業実践 6 学年

ア 単元名 「筆者の伝えたいことを短くまとめ、自分の考えとともに伝えよう」

イ 教材名 『生き物はつながりの中に』

ウ 単元の目標

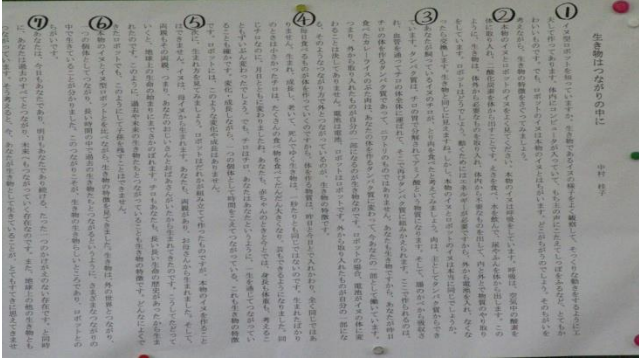
○筆者の意図をとらえるために説明文を詳しく読み、それに対して自分の考えをもとうとする。 (国語への関心・意欲・態度)

○文章の構成や表現に気をつけながら説明文を読んで筆者の意図をとらえ、それについて自分の考えをもつことができる。 (読むこと)

○自分の考えを伝えるための文章構成の工夫を理解することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項)

エ 本時の展開

学習活動 ○学習内容	活動の様子・本時に関わる具体的な手だて
1 学習課題を知る。	<p>T：学習計画表を見て、今日のめあてを確認しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「生き物はつながりの中に」を読んで、文章の構成を考えよう</p> </div>
2 本文を読む。	<p>T：「生き物はつながりの中に」を音読しましょう。初めは自分で読みます。次に隣の人とペア読みをしましょう。文や言葉を意識しながら読みます。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><手だて③>文章全体を1枚の用紙にまとめておきそれを見ながら考えられるようにする。</p> </div>
3 はじめ・中・終わりに分ける。	<p>T：説明文の三つの部屋の性格を思い出しましょう。 T：「はじめの部屋」の性格は？ C：話題の提示・問いの投げかけ・はじめのまとめ T：「おわりの部屋」の性格は？ C：おわりのまとめ・問いの答え・筆者の考え T：では、3つの部屋に分けてみましょう。それぞれの部屋の間には線を引きます。 T：では、自分の考えをまず隣の人に説明してみましょう。</p>



なぜそこで分けたか、理由をわかるように話しましょう。

<手だて③> 自分の考えを明確にするために、児童がお互いに自分の考えを説明し合う場面を授業の中で作る。

T : それでは、全体で話し合います。「はじめの部屋」はどこで分けられるかな？

C : 1と2の間。1は「さぐってみましょう。」と問いを投げかけている。2は説明っぽいから1と2の間。

C : 2と3の間。2のおわりに「同じでしょうか。」という問いがある。

T : ちょっともやっとしているね。では先に「おわりの部屋」を考えよう。どこで分けられるかな。

C : 6と7の間。7には筆者の考えが書かれている。

C : 5と6の間。6にはまとめている文がある。

T : どの文がまとめている文なの？

C : 「分かりました」という文。答えの文。

T : では、5と6の間でいいかな。すっきりしたかな。答えがあるということは、みんなに問いかけたり、投げかけたりしている文があるはずだね。大きな投げかけはどの文かな？

C : 「生き物の特徴をさぐってみましょう。」ではないか。



3 本時のまとめと次時の確認をする。

T : これから詳しく読んでいく中で、すっきりさせていきましょう。

(2) 授業実践 3学年

ア 単元名 「君も紹介マスター！」

～外国の民話や昔話を紹介するパンフレットを作ろう～

イ 教材名 『三年とうげ』

ウ 単元の目標

○物語の組み立てに興味をもち、登場人物の気持ちの変化や情景を想像することができる。
(国語への関心・意欲・態度)

○外国の民話や昔話を読んでそのあらすじをまとめ、一人一人の発表の仕方よさに気づくことができる。
(読むこと)

○文章中で使われている言葉に着目し、表現するための語句を増やしている。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項)

エ 本時の展開

学習活動○学習内容	活動の様子・本時に関わる具体的な手だて
1 学習課題を知る。	T: 学習計画表を見て、今日のめあてを確認しましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">しょうかいマスターになるために、パンフレットのよいところを伝え合おう。</div>
2 本時の流れを知る。	T: 今日の学習の流れを説明します。 ①グループ学習 (ほめあげ大会パート1) ②全体学習 (ほめあげ大会パート2) ③一人学習 です。
3 伝え合いの仕方を知る。	T: 次に、伝え合いの手順を確認します。 ①3人グループで回して読む。 ②よいところにシールをはる。 ③よいと思った理由を伝え合う。です。 T: よいところの観点を確認しましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">・あらすじ文の「よいところ」 ①四つの組み立て方が分かる文が書けている。 ②登場人物の行動や様子が書けている。 ③大事なことを落とさずに書けている。 ・おすすめ文の「よいところ」 ①自分の言葉で、思ったことを書けている。 ②おすすめする文が書けている。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"><手だて③>伝え合いの活動では、ねらいを明確にするために観点を掲示する。</div> T: シールが1枚以上貼ってあれば、紹介マスターになれます。

4 グループで伝え
合いをする。

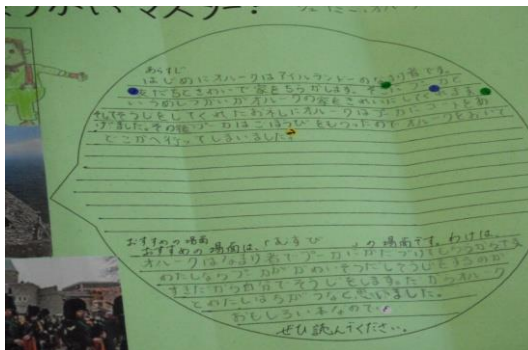
T: グループでの伝え合い、「ほめあげ大会パート1」を始め
てください。



5 全体で伝え合
いをする。

T: 次に、全体での伝え合い、「ほめあげ大会パート2」をし
ます。活動の手順を説明します。

- ①となりどうして読み合う。
- ②よいところにシールをはる。
- ③よいと思った理由を伝え合う。
- ④教室前方へ行きペアを作り、ペアの友だちと読み合う。



6 気付いたことを
書く。

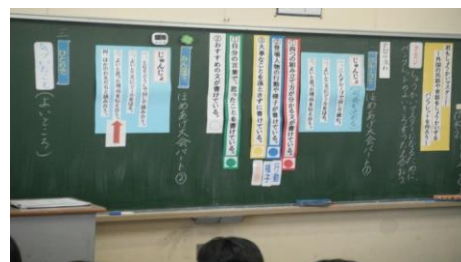
T: 伝え合いを通して、友達のパンフレットのよかったところ
などについて、気付いたことを書いてください。

C: もう一度本を読んでみたくなりました。

C: 友達のパンフレットには、様々な工夫があって、私も真似
してみたくくなりました。

7 本時の感想を書
く。

T: 今日の授業の感想を、学習計画表に書きましょう。



4 研究の成果と課題

(1) 成果

[視点1]…他教科に活かせる国語力をつけるための国語科の単元の工夫

○単元のゴールとなるモデルを提示することにより、児童の意欲を高め、相手意識や目的意識を持続させて学習に取り組むことができた。

○授業の中にペアやグループでの話し合いなどの交流を取り入れることにより、自分の考えを明確にし、自信をもって書いたり話したりすることができるようになってきた。

○単元の流れや1時間の授業の流れを見通せるような工夫をしたり、作業の手順を視覚化したりすることにより、授業に集中して取り組める児童が増えた。そのやり方を他教科にも取り入れて進めている。

○授業では、同じように書き込めるワークシートを作るなど繰り返して学べるようにしたことにより、文章構成の理解や主題の読み取りなど「読むこと」の中心となる力が少しずつついてきている。

[視点2]…学習環境・言語環境の整備

○音読を継続することにより、言葉の意味を理解して、しっかりと声を出して読めるようになった児童が増えた。

○図書室の環境を充実させ、さまざまな働きかけを行ったことにより、図書室の本の貸出量が増え、意欲的に読書に取り組もうとする児童が増えた。

(2) 課題

◇読み取りが浅く、場面の様子を思い描けない児童がまだまだ多い。教材研究を重ね、どこの部分から何をよみとらせるのか、ねらいをはっきりさせて授業を進めていく必要がある。

◇語彙力が足りないので、正しく言葉を使えない児童が多い。語彙力を増やすための手立てはこれまでも色々と試してきたが、児童が興味を持って取り組めるもので、継続できるものに精選していくことが大切である。

◇授業の中での交流の大切さがわかってきた。今後は、場の設定や話し合いの視点をより明確にすることなどに工夫が必要である。